

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2025 年 度 入 学 試 験 問 題

《 1 月 29 日 実 施 》

国 語

(6 0 分)

注 意 事 項

- この問題冊子は、14 ページあります。
- 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- この問題冊子の受験番号欄、氏名欄、および解答用紙の受験番号欄、氏名欄、科目選択欄に、監督者の指示にしたがって、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
- 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしなさい。

（例）解答番号(1)に対して、7 と解答する場合

解答 番号	解 答 記 入 欄									
(1)	①	②	③	④	⑤	⑥	●	⑧	⑨	⑩

- 解答用紙に正しく記入、マークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 問題冊子の余白のページは適宜利用してもよいですが、どのページも切り離してはいけません。
- 不正行為について
 - 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
 - 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 質問のある場合や気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせなさい。

受 験 番 号						氏 名

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合上、表記を改めたところがある。

絶滅——その言葉のひびきは暗く、絶望的にすら感じられます。生物学における絶滅とは、「あるグループに所属する生きものが全滅して（すべて死に絶えて）、そのグループの歴史が絶たれる」という意味です。しかし、絶滅を「生きものの進化」という大きなスケールでとらえると、その印象は少し変わってきます。

生物に「種」という概念があることは、聞いたことがあると思います。たとえば「アジアゾウ」は種、「ゾウ」はアジアゾウだけでなくアフリカゾウなどゾウの仲間をまとめたゾウ科やゾウ目といった、より広いまとまりを指します。絶滅が語られる時のグループは「種」であることがXですが、じつは絶滅は「科」や「目」のような、種よりも大きなまとまりにも当てはまる概念です。

「全滅して、絶える」と聞くと、やはりネガティブな感じがしますが、ある生きもののグループが絶滅することで、そのグループが使っていたすみかや食べ物を利用する、新たなグループが誕生する可能性が開けることもあります。ア、絶滅しつつあるグループの一群が世代を重ねて姿を変え（進化して）、他のグループとして誕生することもあります。恐竜は滅びましたが、その一部は鳥類に姿を変えて生き延びていることも、その一例といえるでしょう。

地球誕生は46億年前、生命誕生は40億年前頃と考えられています。想像もつかないほど長い時間ですが、その生命の長い歴史は、絶滅と誕生のくり返しの歴史でもあるのです。

ところでみなさんは、現在、地球上に何種類くらいの生きものがあると思いますか？ 2018年の研究報告によると、人間に一番なじみのある、ゾウやパンダ、ライオン、トラなどの哺乳類は、6400種ほどです。哺乳類の多くがすでに人間に発見されている一方で、両生類（カエルやサンショウウオの仲間）や爬虫類（トカゲやヘビの仲間）、魚類では毎年新種が発見され、各分野で科学者が管理するデータベースに登録される種の数は増え続けています。昆虫や菌類、バクテリアまで含めると、いったい何種類の生きものが地球上に存在しているのか、見当をつけることさえも難しいのが現状です。

それでも科学者たちはいろいろな情報や数式を使い、すべての生物種の数を推定してきました。科学者によって推定値がだいぶ異なりますが、2011年に発表された米国アリゾナ大学の研究チームの論文によると少なくとも10億〜60億種はいるだろうとされています。

さらに驚くべきことは、現在地球上に存在している生物種数は、生命の歴史のなかで誕生したすべての生物種数と比べると、たった1%ほどにすぎないと推定されていることです。だとすると、現在の推定値10億〜60億の100倍、つまり約1000億〜6000億もの生物種がこれまでに現れて、絶滅してきたことになります。人間もそのなかの1種にすぎません。

イ 絶滅は特別な現象ではなく、地球上に生命が誕生してから連綿と続いてきた自然現象なのです。変化した環境に適応できずに絶滅したり、

他の生きものとの生息地や食料の奪い合いに負けたりして、たくさんの生きものたちがこの地球から姿を消していきました。すべての命に終わりがあ
るように、すべての生物種にも終わりがああるのです。

このように、自然現象であるはずの絶滅が、なぜいま問題になっているのでしょうか？ 環境省の2020年のデータによると、これまでに日本国
内で絶滅した（動物園などの飼育環境下でしか生存していない野生絶滅を含む）動物の数（種または亜種^{あしゅ}の数。亜種とは種のなかでも地域的な特徴を
持ったまとまりのこと。たとえば北海道に生息するエゾシカは、ニホンジカの亜種）は50種。絶滅予備軍（絶滅危惧種^{ぜつめつきふしゅ}。絶滅が心配される種のこと）
の動物が1446種。絶滅した植物は74種、絶滅予備軍が2270種です。

ウ 絶滅種^{ぜつめつしゅ}の数は近年増えています、その数は過去に絶滅したものや、いま地球上にいる生きものの数と比べると、とても少ないと思いませ
んか？ それにもかかわらず、いま、絶滅が問題になっているのは、以下のように大きく3つの理由があります。

1つ目の理由は、生命の歴史という大きなスケールで見ても、現在の絶滅率（単位時間あたりに絶滅する生物の種数）が異常に高いことです。
2015年に発表された論文によると、現在の脊椎動物（背骨のある動物。哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類）の絶滅率は**ひかえ目**に見積もって
も、通常期の100倍に達すると報告されています。異常な速さで生きものが絶滅しているのです。

先に「生命の歴史は絶滅と誕生のくり返し」と書きましたが、正確には、種の絶滅と新たな種の誕生は常に起こっています。どういうことかとい
うと、これまで絶滅率が種分化率^{しゅぶんか}（単位時間あたりの種分化により誕生する生物種数）をはるかに上回る時期、つまり生物種が減る時期と、その逆の生
物種が増える時期がくり返されてきた、ということです。現在は、絶滅率が種分化率を大きく上回っています。その結果、生命の歴史上まれにみる勢
いで、生きものたちがいなくなっているのです。

イメージとしては、大きな台所のシンクを想像してください。その大きなシンクにたまる水の量が生きものの種数です。シンクの底に小さな穴が開
いていて、そこから流れ出る水の量が絶滅する生きものの数。そして、水道からシンクに流れこむ水の量が誕生する生きものの種数だと考えましよう。

普段は水がチョロチョロ流れ出て（絶滅して）、新しい水がチョロチョロ流れこみ（誕生して）、シンクにたまる水の量（地球上の生きものの総種
数）のバランスは保たれています。流れこむ水の量は変わらないのにドバツと水が流れ出て、シンクに残る水量が短時間で極端に少なくなる状態
が、急激に生きものが減る状態です。現在、シンクの底には過去にないほどの大きな穴が開いてしまい、穴の大きさは拡大し続けています。そこから
の水の流出が止まらない状態なのです。

エ 誰^{だれ}がそんな大きな穴を開けてしまったのでしょうか？ それは、私たち人間です。絶滅がさがわがれている2つ目の理由は、**現在の異常に高
い絶滅率**が、1つの生物種^{せいぶつしゅ}＝ヒト、によって引き起こされているからです。

生命の歴史において、絶滅率が種分化率を大幅に上回るできごとは何度もありました。それを大絶滅（または大量絶滅）といいます。なかでもきわ
だつて生きものが減少した過去5度の大絶滅は、ビッグファイブ（5大大絶滅）と呼ばれています。

けれども、1種類の生物が他の生物の大絶滅の原因となるのは、科学の知る限り40億年の生命の歴史上、今回が初めての事です。地球上に1000億から6000億種類も生まれてきた生きもののうち、たった1種類のヒトという生きもの。それが大絶滅を引き起こそうとしているのです。

かつて、ヒトの他にも、たくさん増えて、いわゆる「成功」を収めた生物種もいたでしょう。そういう種であっても、いずれは食料となる生きものが少なくなったり、捕食者に食べられたり、生存競争が激化したり、また高密度で生存していたために伝染病が広がりやすくなったりして、他の生きものの大絶滅を引き起こす前に、その生物種の数に環境収容力（環境が維持できる生物の個体数の上限）に収まるように制御されてきました。

たとえるならば、それぞれの生きものの種に与えられた容器があつて、容器のサイズは決まっています。これを「環境容器」と名づけましょう。ある種の生きものがどんどん数を増やしてゆくと、環境容器はどんどん満ちてゆきます。最初はすごい勢いで満ちていきますが、いつぱいに近づくとき、だんだんゆっくり満ちるようになります。環境容器がいつぱいになると、それ以上増えることができません。この最大量を、環境収容力というのです（実際の環境収容力は、周りの環境要因によつてそのサイズがある程度変動します）。

ところが人間は、農業、漁業、工業、医療、化石燃料の使用、危険な生きものの排除、居住環境の拡大と改善などを徹底的に行い、元来の環境収容力を超えて増え続けました。つまり、人間は与えられた環境容器のサイズを無理にどんどん大きくしていったと考えることができます。容器のサイズを大きくするには、容器の材料を無理やり調達したり、他の生きものに与えられた環境容器を取り上げたりして、自分たちのものにする必要があります。その結果、乱獲、生息地の破壊、環境汚染、地球温暖化などを引き起こし、多くの生きものを絶滅に追いこんでしまっているのです。

特に18世紀半ばから19世紀にかけて起こった産業革命以来、世界の人口はYに増え、それにともなつて環境の悪化も急激に進みました。僕が生態学者になるきっかけをくれた祖父が95歳で亡くなったのが2015年。これを書いている2020年現在、約78億人の世界人口は、祖父が生まれた時にはまだ20億人ほどでした。彼が一生を終える間に、50億人以上も世界人口が増えたことになります。

また、人間はお金（貨幣）という、富を際限なくたくわえられるシステムを構築しました。お金は不動産や株式などの有形資産に変換してたくわえることも可能です。たとえばリスのように多少の食料をたくわえる動物もいますが、基本的に生きものたちは、自分や家族が必要な量の資源しかとりません。オ人間は富をたくわえ、必要以上に資源を搾取できるようになったことで、さらなる環境破壊と生きものの絶滅を引き起こしているのです。

そしていま、絶滅が問題視されている最後（3つ目）の理由は、人間が本来の環境収容力を超えて増え続けた結果、とうとうそのツケが人間にも回つてきているからです。自然環境を操作し続けて人間自身の環境収容力の上限を押し上げてきたのが、これ以上は環境容器を大きくすることはできない、というところまでできてしまったわけです。

国連は「食料問題」を地球規模の問題の1つとして取り上げています。それによると、かつては増え続ける人口に必要なだけの食料を供給できていました。それが2004年頃から需要が供給を上回り、飢えに苦しむ人々の数が増加し始めました。2018年には、その数が推定8億2000万人

にまで増えました。2018年の地球の人口が約76億人ですから、9〜10人に1人が飢えて苦しむ時代になったのです。これ以上大きくなれない、満杯になった環境容器。^乙そこらこぼれ落ちる人が増えてきている、ということですよ。

また、環境容器のサイズを無理やり大きくし続けたために、地球温暖化、環境汚染、水不足などの環境問題も深刻化しています。生命の歴史上まれにみるスピードで生きものが絶滅している世界は、人間が生きていくうえでも良い世界とはいえないのです。

複雑にからみあう個々の問題を、Zに解決していかなければ、人間と地球にとっての平和と繁栄^{はんえい}の未来はありません。そこで国連は、こういった問題を解決するために、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉^{ふくし}を」といった、17の「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、SDGs）^{エスディージーズ}」を掲げました。2015年のことです。

17の目標のなかには「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」も含まれています。海と陸の豊かさを守るには多様な生きものの輪、生物の多様性を維持する必要があります。現在急スピードで進行中の絶滅に歯止めをかけることも、私たち人間のより良い未来の実現に欠かせない要素の1つなのです。

（高橋瑞樹^{みずき}『大絶滅は、また起きるのか？』より）

問一 傍線部①「その印象は少し変わってきます」とあるが、どのように変わってくるのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号（ 1 ）

- 1 絶滅は「科」や「目」でも起こることが分かると、絶滅がスケールの大きなものに思えてくる。
- 2 絶滅する生きものとそうでない生きものがいることが分かると、絶滅が非常に理不尽に思えてくる。
- 3 絶滅と誕生をくり返しながら、生物は進化しているとすると、絶滅も受容できると思えてくる。
- 4 絶滅は特別な現象ではなく自然現象だとすると、絶滅は絶望的な暗さを持つものに思えてくる。
- 5 現在地球に存在する生物種数の見当がつかないとすると、絶滅もその真偽が怪しく思えてくる。

問二 空欄

X

Z

 に入れるのに最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 X (2) Y (3) Z (4)

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| X | 1 | 理論的 | 2 | 一般的 | 3 | 倫理的 | 4 | 民主的 | 5 | 客観的 |
| Y | 1 | 即興的 | 2 | 合理的 | 3 | 普遍的 | 4 | 具体的 | 5 | 爆発的 |
| Z | 1 | 創造的 | 2 | 象徴的 | 3 | 総合的 | 4 | 画一的 | 5 | 観念的 |

問三 空欄

ア

オ

 に入れるのに最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 ア (5) イ (6) ウ (7)
エ (8) オ (9)

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|----|---|------|---|----|
| 1 | しかし | 2 | つまり | 3 | では | 4 | たしかに | 5 | また |
|---|-----|---|-----|---|----|---|------|---|----|

問四 傍線部 a の言い換え、b の対義語として最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 a (10) b (11)

a 変化した環境に適応できずに絶滅した

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|---------------------|---|--------------------|
| 1 | 諸行無常 | 2 | 弱肉強食 | 3 | 盛者必衰 | 4 | 自然淘汰 ^{とうた} | 5 | 四面楚歌 ^{そか} |
|---|------|---|------|---|------|---|---------------------|---|--------------------|

b ひかえ目

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|------|---|-----|---|------|---|-----|
| 1 | 大げさ | 2 | 大まじめ | 3 | 大らか | 4 | 大ざっぱ | 5 | 大みえ |
|---|-----|---|------|---|-----|---|------|---|-----|

問五 傍線部甲、乙の指示語の指すものとして最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 甲（ 12 ） 乙（ 13 ）

甲
そこ

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|--------|---|------|---|-------|---|--------|
| 1 | 台所 | 2 | 穴が開くこと | 3 | 大きな穴 | 4 | 穴の大きさ | 5 | 拡大すること |
|---|----|---|--------|---|------|---|-------|---|--------|

乙
そこ

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----------|---|-------|---|----------|---|------|
| 1 | 地球 | 2 | 8億2000万人 | 3 | 地球の人口 | 4 | 飢えで苦しむ時代 | 5 | 環境容器 |
|---|----|---|----------|---|-------|---|----------|---|------|

問六 傍線部②「現在の異常に高い絶滅率が、1つの生物種〓ヒト、によって引き起こされている」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号（ 14 ）

- | | |
|---|---|
| 1 | 万物の霊長である人間は優れた能力を持ち、他の生きものの生存競争に勝つことができたから。 |
| 2 | 他の生きものと違い、環境収容力の上限がなかった人間は、人口を増やし続けることができたから。 |
| 3 | 生きものたちは家族と生活するが、その必要がない人間は、他の生きものの居住地を破壊したから。 |
| 4 | 人間には捕食者がおらず、伝染病にもかからないために、環境収容力に収まることはなかったから。 |
| 5 | 人間が富をたくわえ、必要以上に資源を使ったり、他の生きものの環境容器を奪ったりしたから。 |

問七 傍線部 c、d の意味として最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 c (15) d (16)

c 制御されてきました

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------------|
| 1 リサイクルされてきました | 2 コントロールされてきました | 3 ステレオタイプ化されてきました |
| 4 プロセス化されてきました | 5 マニュアル化されてきました | |

d 搾取できる

- | | | |
|-----------------|--------------|--------------|
| 1 うまく利用することができる | 2 破壊することができる | 3 作り出すことができる |
| 4 しほりとることができる | 5 所有することができる | |

問八 傍線部③「絶滅が問題視されている最後(3つ目)の理由」とあるが、それは何か。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号 (17)

- 1 人間が他の生きものの逆襲に遭い、生存が難しくなってきたこと。
- 2 人間が自らの首を絞め、生きにくい状態になってきていること。
- 3 人間が環境破壊を行ったため、他の生きものが絶滅し始めたこと。
- 4 人間と他の生きものが、共存することができなくなったこと。
- 5 人間が環境容器を破壊して、環境収容力を小さくしてしまったこと。

問九 本文の内容と合致するものはどれか。次の選択肢から一つ選べ。解答番号（ 18 ）

- 1 飢えに苦しむ人々が増加し始めているので、森を切り開き、速やかに耕作地を拡大しなくてはならない。
- 2 過去に絶滅した生きものの数に比べると、近年の絶滅種数はとても多く、早急に解決しなくてはならない。
- 3 現在、地球上に何種類の生きものが存在しているのかを推定することは、科学者たちにも不可能である。
- 4 現在の絶滅率は異常に高く、それを食い止めることは、人類の未来のためにも欠かすことができない。
- 5 生命の誕生以来、生物種が絶滅することは続いているが、現在もそれを上回る新しい種が生まれている。

一二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合上、表記を改めたところがある。

① 著作権侵害も、人間がAI抜きにすでに起こしている問題です。現在の日本では、小説や音楽などの作品に「依拠性」と「類似性」の両方が認められる場合に限り、著作権侵害と見なされます。

依拠性は他人の作品を参考にして作ることで、類似性は似ていることです。他人の作品を参考にしても、似ていなければ著作権侵害にはなりません。逆に、他人の作品に似ていても参考にしていなければ、偶然と見なされて、これも著作権侵害にはなりません。

ア、真似して作つてはいけないということです。単に参考にした場合や、参考にしたわけではないのに偶然似てしまった場合には、著作権侵害とはならないのです。

基本的には、AIも人間と同じように考えて差し支えないでしょう。AIはネット上にあるたくさんの画像や文章を読み込んで、それを元に新たな創作物を生成します。人間も、既存の作品をたくさん吸収しており、その記憶に基づいて新たな創作物を生み出しています。その点はあまり変わりありません。ただAIは、人間とは異なって完全な記憶力を持っています。

人間については、作品に触れたことが確かであれば、その内容に関する記憶がおぼろげでも、依拠性があると見なされることがほとんどです。それならば、AIが読み込んだ作品のデータについては、完全に記憶（記録）されているので、より明白に依拠性があると見なされるべきでしょう。そうするとあとは、類似性があれば著作権侵害ということになります。これは、人間のケースとなんら変わりありません。

生成AI自体に、「この画像は既存の画像に類似しているので、著作権侵害に関わる注意が必要です」といった警告が表示されても良さそうです。今はそういう機能がありませんが、それでもグーグルの画像検索などを活用すれば、類似した画像が存在するかどうか確認することができます。したがって、私はAIが行う著作権侵害について特別な問題があるとは思っていません。

ところが、2023年2月「Getty・イメージズ」という画像を蓄積するサービスを行っている企業が、Stable Diffusionの開発元であるStability AI社を著作権侵害で訴えました。1200万枚もの画像が、AIの機械学習のために勝手に使われたというのです。

私の個人的な意見ですが、画像データなどを勝手にAIに読み込ませるとい問題は、著作権侵害とは別の新たな問題としてとらえたほうがいいと思います。

イ、先ほど述べたように、既存の画像を読み込んで学習するという行為は人間も行っているからです。生成AIが人間のXを脅かしているのは、明白な事実です。それにこのままでは、人間にしか作れないような斬新な作品を創作するインセンティブが失われて、AIが生成するありふれた作品ばかりがこの世にあふれかえるようになるかもしれません。

生成AIを禁じるのも1つの手だと思います。ただ、それが現実的ではないならば、どこかで折り合いを付けるようなルールとしくみが必要であるとも考えられます。

それは、人間の創作物に限っては「機械学習利用権」のような権利を新たに設定し、機械学習で利用する際に、著者に報酬を支払う簡単なくみを設けるようなことです。カラオケで誰かが歌うたびに、その歌の作曲家や作詞家にお金が入ってくる「カラオケ印税」のしくみと似たようなものです。

すでに、デザイン系のソフトウェアを提供するアドビ社の生成AI「ファイアフライ」では、機械学習の素材となる画像の作成者に報酬が与えられることになっています。

そういうしくみは必要ですが、そのうえで、今後のクリエイターはAIを使いこなして創作することやAIにはできない斬新な表現を生み出していく方向に進む以外にはないものと私は思っています。人類は生成AIという「パンドラの箱」を開いてしまった以上、それを前提に歩んでいくほかないというわけです。

【I】

先ほど著作権の関連で触れましたが、結局のところAI^②がもたらす最大の脅威は、仕事が奪われたり、人としての誇りが奪われたりすることではないでしょうか？ 単に失業するだけでなく、人類全体がX・クライシスに陥る可能性もあります。

ChatGPT & Stable Diffusion のような生成AIは、すでに人間の誇りを傷つけるほどの力を手にしています。私も自分で「AIの歴史」に関する雑誌記事を執筆したあと、試しにChatGPTにも書かせてみたら、私のよりもずっとわかりやすく的確にまとめられており、打ちひしがれてしょぼんとなった経験があります。

AIは将来的には神のようになる可能性すらあるため、AIと競争すること自体が愚かだという意見もあります。

私は今のところ、AIが人類の^(注1)叡智^{えいち}を圧倒的に^{ぶりやうが}凌駕^{りやうが}するそのような未来を考えてはいません。ただ、AIが紡ぎ出す言葉が、人間が口にする言葉と区別できないのであれば、人間も機械とさほど変わらないのではないか。そんな疑念が不安とともに湧いてくることがあります。

【II】

イギリスの数学者アラン・チューリングが考案した「チューリングテスト」は、機械に知性があるかどうかをチェックするためのテストです。現代風に言うと、ネット越しにAIとチャットして、それが人間なのかAIなのかわからなければ、人間同様の知性を持っていると見なすようなものです。

ChatGPTはチューリングテストに合格していると思っています。GPT-3ですら、アメリカの掲示板で人々の悩み相談に応じていて、1週間誰にもAIだと気づけなかったということがありました。

【III】

AIだと発覚したきっかけは、返答が早すぎて疑問に思った人がそのことを掲示板に投稿し、調査が行われたからです。このように、AIはもはや

人間の能力を凌駕しているがために、AIだと見破られるようなレベルにまで達しているのです。

私も学生のレポートを見ていて、文章に乱れがなく内容的確でバランスが良いものは、ChatGPTに書かせたのではないかと疑ってしまいます。なお、ChatGPTに「それほどしっかりとしていない、普通の大学生らしい文章でお願いします」^(注2)とプロンプトを与えれば、そのとおりに書いてくれるので、見破るのはより難しくなります。もっとも、チェックツールを使えばChatGPTを使って作ったレポートであるかどうかを識別できますが。

【IV】

逆に、人間にとって、機械ではなく人間であると証明することが難しくなってきたとも言えます。つまり、ネット越しに人とチャットして自分がAIではなく人間であると示すことが果たしてできるかという話です。

このテストここでは「人間テスト」と呼ぶことにしましょう。たとえば今後、AIがX（旧ツイッター）に文章を投稿することも増えてくるでしょう。みんながAIかもしれないと疑っている中で、人間であることを示すような投稿ができるかという点、これはかなり難しいはずで

すでに人が書いているような文章であれば、AIはそれを真似ることができます。なので、これまでまったく書かれたことがないような文章を書かなければ、人間テストには合格できません。

【V】

試しにChatGPTに「ツイッターで誰かがツイートしていそうな面白い文章を作ってください」と指示したら、

宇宙旅行が一般的になったら、宇宙の土産^③ってどんなものになるんだろう？

今日、雲がまるで巨大なコットンキャンディのようだった。食べたくなっただけ、飛べないのが残念

もし時間を止める能力があったら、最初にやることは……昼寝。確実に昼寝

というような答えが返ってきました。この程度のY^④なら、AIはいくらでもつぶやけるといいうことです。

文字数に制限があるので、人間らしい独自性が出にくいという点はあると思いますが、文字数が自由であったとしても、人間にしかできないような表現はなお困難でしょう。斬新な詩を書くとか、これまで人が表現しなかったような真新しい体験を文章にするとか、新奇な学説を唱えるとかしなければ人間の証明はできません。

そう考えると、歴史上の優れたクリエイターは、結果として自らが人間であることを証明するような作品を作り上げてきたとも言えるでしょう。芸

術がただの娯楽でないならば、何のためにあるのか？ その答えは、人間の証明のためにある。AI時代の今、そういうことも言えそうです。

ウ、芸術作品を作ったり新しい思想を展開したりしているわけではない普通の人が、人間テストをクリアするのは難しいでしょう。

今の言語生成AIは、ある言葉の後ろに続く言葉として確率の高いものを繋^{つな}げているに過ぎない。要するに、今のAIは思考しているとは言いがたいのです。だとすると、人間であることを証明できない多くの人たちは、じつは思考していない、あるいは思考していないはずのAIでも言える程度の思考しかしていないことになります。

ChatGPTが明らかにした人類にとつての「不都合な真実」とは、私たちは多くの場合、考えて話しているように見えるけれど、AIでも言えるような機械的な話しかしていないということです。その点は、昼下がりのカフェで有閑マダムたちが交わすもやま話でも、会社の偉い人がのたまっている説教めいた話でも変わりありません。

(井上智洋^{ともひろ}『AI失業 生成AIは私たちの仕事をどう奪うのか?』より)

(注1) 叡智 —— 優れて深い知恵、高い知性のこと。

(注2) プロンプト —— ここでは、AIとの対話などにおいて、ユーザが入力する指示や質問のこと。

問一 傍線部①「著作権侵害」とあるが、どのようなときに著作権侵害があると見なされるのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号 (19)

- 1 他人のすでに存在している作品を自らの創造のヒントにし、他に類を見ない作品を制作したとき。
- 2 過去に存在した画像や文章のどれとも似ていない、個性的で、独創的な作品を創造したとき。
- 3 既存の小説や音楽、映像作品などに触れた上で、それらを基に似た作品を新たに作ったとき。
- 4 他人の作品をまったく見たり聞いたりしていないのだが、他人の作品ととても似てしまったとき。
- 5 他人の作品と類似しているか、他人の作品に依拠しているかの、どちらかが生じているとき。

問二 空欄 ア ☐ ウ ☐ に入れるのに最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 ア (20) イ (21) ウ (22)

- 1 たとえば
- 2 まるで
- 3 というのも
- 4 逆に
- 5 要するに

問三 空欄

X

、

Y

 に入れるのに最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 X (23) Y (24)

- | | |
|----------------------------|---|
| X
1 ポリシー
Y 1 荒唐無稽なこと | 2 アイデンティティ
2 鼻持ちならないこと
3 スタンス
3 理性的なこと
4 イデオロギー
4 気の利いたこと
5 コスモロジー
5 奇妙きてれつなこと |
|----------------------------|---|

問四 傍線部 a、b の意味として最も適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。解答番号 a (25) b (26)

a 折り合いを付ける

- 1 委任する 2 妥協する 3 賛同する 4 交渉する 5 確約する

b 凌駕する

- 1 他のものを打ち負かす 2 他のものを押しのける 3 他のものをしのぐ
4 他のものを見限る 5 他のものをうとんじる

問五 傍線部②「AI がもたらす最大の脅威」とあるが、例えばどのような脅威があると筆者は考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号 (27)

- 1 AI が神のようなものになってしまい、人間が AI に支配されることになる。
2 自分が一体 AI なのか人間なのかがわからなくなってしまい狼狽ろうばいしてしまう。
3 AI が紡ぎ出す言葉を人間が理解することができず、当惑を覚えることになる。
4 AI に仕事を奪われることはないが、人間の誇りが奪われてしまうことがある。
5 AI のほうが優れた結果を出すことができ、人間が無力感に包まれてしまう。

問六 次の段落は、本文中の【Ⅰ】～【Ⅴ】のどこに入るのか。最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号（28）

このようにAIは、本気を出すと人間の知性を凌駕してAIであることがバレてしまいます。もはや手加減しないとチューリングテストに合格できないわけですが、人間のレベルにまで能力を落としてあげることもまた可能なのです。

- 1 【Ⅰ】 2 【Ⅱ】 3 【Ⅲ】 4 【Ⅳ】 5 【Ⅴ】

問七 傍線部③「機械ではなく人間であると証明することが難しくなってきた」とあるが、人間であることを証明するためにはどのようなことをしたらよいか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号（29）

- 1 自分はAIではないと必ず宣言したうえで、X（旧ツイッター）に投稿するしかない。
- 2 芸術家となつて、独自性のあるモチーフから見たこともないような作品を作るしかない。
- 3 すでに誰かが書いた文章であるとわからないように、レトリックなどを駆使するしかない。
- 4 生成AIにはできないような、人間らしいオリジナリティを持った表現を行うしかない。
- 5 文字数が制限されていると証明が難しいので、できるだけ長い文章を書くしかない。

問八 本文の内容と合致するものはどれか。最も適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。解答番号（30）

- 1 ネット越しにAIとチャットしている相手が、AIなのか人間なのかわからないということは起こらない。
- 2 歴史上の優れたクリエイターというのは、AIを駆使することによって、斬新な表現を生み出していた。
- 3 文章が整い内容も的確な学生のレポートを、生成AIではなく本人が書いたと確信しにくくなっている。
- 4 昼下がりの有閑マダムがカフェで話している中身と会社の偉い人の話の中身は、なんら変わらない内容である。
- 5 思考していると思っている人間が思考しておらず、思考していないと思っていた生成AIが思考している。